

1. 研究目的

近年、言語能力の低下、勉強意欲の減衰など、知的水準が落ちていると言われている。その要因として活字離れ、読書嫌いが挙げられている。結果漢字が書けず、文章が読めない。また、最近の携帯電話やメールの普及もそれを助長している原因であると言われている。そこで、小さい頃から漢字に親しむ必要があると思い研究目的とした。

2. 調査と分析

漢字がどの学年から苦手になるのかを把握する為、小学校全学年の1学年ごとに新出漢字と読み「書き」がどの程度できるかを調べてみた。

全体として正答率が1学年が進むにつれて徐々に低下している。つまり、「だんだん読み書きができなくなっている」と言える。さらに見ると、3学年の時に急激に正答率が低下しているのが見られた。また、3学年からは無答率が10%以上の漢字が目立った。分析結果によって、小学校全学年の中で3学年が漢字の「読み」「書き」を最も苦手としている学年と分かった。そこで、3学年までをターゲットに絞って作ることに決めた。

次に漢字を覚えるためにどんな教材(本)、道具があるかを調べてみた。演習問題を解いていく漢字ドリルや漫画が使われているものもあった。また、低学年向けになると、漢字の意味とその漢字に関係のある大きな絵や写真と一緒に載せてあるものがあった。道具では、カルタやカードがある。これらを調べてみる限り、絵が載せてある方が理解しやすかった。また、一連の流れなどがあると理解しやすかった。これらの分析結果より、絵本で作るのが一番ベストであると導き出した。

3. コンセプトの立案

- ストーリーがあって漢字を絵の中にちりばめた絵本を作る
 - ・具体的な絵がある。
 - ・物語の内容は悪者を退治するというもの。
 - 物語の中で一番理解しやすいジャンルなので漢字を覚えるに適していると思われる。
 - ・漢字への理解を深める為に補足解説を入れる。

4. デザイン展開

- ・低学年に読ませる為にキャラクターを使う。
 - 今の子供はリアルな写実的な絵よりアニメ漫画に親しむ環境にある。そこで、絵をアニメタッチにすることによって、受け入れやすくなるのではないかな。
- ・漢字の補足を本の下の部分に入れる。
 - 他の読み方やその漢字の意味などを覚えさせるための手助けをする。これにより、一つでも多くの漢字を覚えられるのではないかな。

5. 完成図



6. 結論

全体を通して改善すべき点が多く見られた。絵本を読みながら漢字を覚えさせようというアイデアの形がなかなかまとまらなかった。また、これからデザインをしていく時には、確かなものがつくれるという確証を持てるまで、しっかりアイデアをまとめてから物造りに取りかかるように心がけたいと思った。今回学んだ事を参考にし、今後に活かしていきたいと思う。

7. 参考文献

- 「教育漢字の読み・書きの習得に関する調査と研究」
<http://www.sokyoken.or.jp/kanjikeisan/kanji0503.pdf>
 「糸かがりとじ BindUp」
http://www.geocities.jp/ryou_tanoue/bind/ito/index.htm
 漢字教育研究会『New漢字字典』フレーベル館